

いま使える低軌道衛星の送信—受信周波数の一覧

<https://www.amsat.org/two-way-satellites/> より抜粋

de JO1LDY 黒木重弘、JA0FKM 上田穂積

2026/7/30



SSB/CW衛星(トランスポンダ)(BCNはビーコン周波数)

ドブラー—受信周波数目安=AOS(+8~3kHz高い)⇒LOS(-3~8kHz低い)				
	AO-7(A) AMSAT Live OSCAR 要確認 BCN:29.502MHz(CW) A モード運用時 200 mW	送信USB/CW 受信USB/CW	145.850 ~ 145.900 ~ 145.950 ↓ ↓ ↓	
	FO-29 JARL HP 要確認 (現在: スケジュール運用) BCN:435.795MHz(CW) 1000 mW 注意!! FT-2,4使用禁止	送信USB/CW 受信USB/CW	145.900 145.925 145.950 145.975 146.000 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	
	RS-44 BCN:435.605MHz(CW) 5000 mW	送信USB/CW 受信USB/CW	145.935 ~ 145.965 ~ 145.995 ↓ ↓ ↓	
	Ten-Koh 2 BCN:435.860MHz CW GMSK9600 復旧を目指して作業中 5.839GHz CW 現在BCNのみ DownLinkが弱い	送信USB/CW 受信USB/CW	145.935 ~ 145.915 ~ 145.895 ↓ ↓ ↓	

ドブラー—受信周波数目安=AOS(-3~6kHz低い)⇒LOS(+3~6kHz高い)				
	AO-73 BCN:145.935MHz(BPSK) 300 mW	送信LSB/CW 受信USB/CW	435.130 435.135 435.140 435.145 435.150 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	
	JO-97 BCN: 145.840MHz(BPSK) --- mW	送信LSB/CW 受信USB/CW	435.100 ~ 435.110 ~ 435.120 ↓ ↓ ↓	

FM衛星		AOS	MEL	LOS	
	SO-50(Saudisat-1C) 250 mW	送信FM(67Hz)	145.850		AOS 見え始め(日の出) MEL 最大仰角(中間) LOS 見え終わり(日の入)
		受信FM	436.803	436.795	
	AO-123(ASRTU-1) 週末運用が多い (Beacon とTRPの切り替えがありタイミングをみてUPして下さい)	送信FM(67Hz)	145.850		
		受信FM	435.408	435.400	
	QMR-KWT(RS-95S)1U (稀にFM-TRPモードのなります)BCN:GMSK USP 2.4K(FM)	送信FM	145.920		
		受信FM	436.960	436.950	
	ISS CROSS BAND REPETER ARISSなどにより停止もあり 5000mW	送信FM(67Hz)	145.990		
		受信FM	437.810	437.800	

デジピータ 衛星		周波数(MHz)衛星固定	ソフトなど	コメント
	SONATE-2 DPQSNX	受信、送信 FM AFSK 1K2,AX.25	SoundModem (UZ7HO), ハードTNC GreenCube-Digipeater / UISSなどが便利。	周波数トラッキングは重要 SatPc32ISSなど有効。周波数:145.825MHzを受信しているという衛星が飛んできます。
	NO-44 ほぼ停止中 W3ADO-1	受信、送信 FM FSK 1K2&9K6 ,AX.25		
	ISS AMSAT Live OSCAR 要確認 TRPと同時運用 RSOISS	受信、送信 FM AFSK 1K2,AX.25	TNC(Direwolf, hs soundmodem)+ "ARICA-2 Message"が便利	
	ARICA-2 HP確認 (メッセージBOX有り) JS1YSD	受信 GMSK4k8AX.25 送信GMSK4k*特殊フォーマット		



最新の衛星運用情報



日本各地の衛星通過時刻の予報



衛星運用状況

FM衛星、デジピータ衛星の場合(例 ISS クロスバンドレピーター)でも衛星通信特有のドブラーシフトがあります。ドブラーシフトがなくなるのは衛星のMEL(厳密にはTCA)の時です。この時には 145.990で送信すると 437.800で受信できます。周波数のトラッキングは衛星固定で行う必要があります。JモードではDownLinkのドブラーシフトは約+8kHzあります。AFCが搭載されているFM衛星ではUp-link周波数にある程度の範囲は自動で補正されます。しかしAFCの範囲を超えた場合、他のUp-linkがある場合には手動などでUp-Link周波数を補正(ドブラーシフトは約+3kHz)する必要があります。Up-link周波数をAOSの時には低く、LOSに近くなるに連れて周波数を高くしていきます。例 ISSもドブラーシフトがなくなるのは衛星のMEL(厳密にはTCA)の時です。この時には 145.990で送信すると435.800で受信できます。)また、地上波で使っているリピーターとは別周波数です。設定を確認ください。(ISSの場合正確な周波数になっていないとアクセスできません。また、トーン検出ができないとすぐに止まります。過大なマイクゲインの時に起こります。)

パケットを除いて、地上側からISSを呼び出さないで、ISS側からのCQもしくは「QRZ?」に対して応答するだけにしてください。

※ FO-29 の運用情報は、以下参照ください。

https://www.jarl.org/Japanese/3_Fuji/fuji3-202210.htm